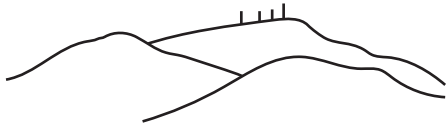


Youth Manna

2021/10/11 - 10/17



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/10/11(月)

ヨブ記 3 章

沈黙の後、ヨブは口を開いて自分の心の内を語り始めました。最初にヨブは、自分の生まれた日を呪います。生まれなければ良かったと嘆くヨブ。サタンの思惑通りになったように見えるヨブですが、ヨブは神様を否定しているわけではないですね。

人は、神様を信じていても、怒りややり切れない思いを神様にぶつけないようになる時があります。ヨブも一人の人間として、その弱い心の内をあらわにしました。

生きていてもどうしようもないと感じることが人生にはあります。そのような苦しみの時に、君はどこに救いを求めるだろうか。私たちの痛みや苦しみをイエス様は誰よりも分かってくくださる方です。私たちのために苦しみを通られたイエス様に心を開いて祈ろう。

2021/10/12(火)

ヨブ記 4 章

エリファズが話し始めました。今までヨブが他の人を励まし力付けていたように、それを自分自身にむける時ではないか(1-6)と語りかけます。そして、不幸には必ず理由があるのだから、ヨブに隠された罪があるのではないかと暗に言っています。

エリファズは、悩める友人ヨブを何とかしてやりたいと思っていたかもしれないけど、彼は絶望し弱っているヨブの心に寄り添うのではなく、厳しいことばでヨブの心にさらに苦悩を与えてしまったのではないだろうか。時に、正しいことを言うことが助けとなるのではなく、その人と一緒に悩んだり苦しむことが必要なこともあるね。

あなたは、悩んでいる人にどのように関わってきただろうか。自分が何かしなくては、解決をしなければという心ではなく、神様の愛の心でその人に関われるように祈ろう。

2021/10/13(水)

ヨブ記 5 章

前章に続き、エリファズがヨブに対して語りかけている場面である。エリファズは、人は神の前に正しくありえないのだから、当然神の裁きを受けるだろう、とわざわざ罪への報いだと語る(1-7)。また彼は、神の正しさを疑わない。神は悪い者を裁き、弱い者を救い出されると語る(8-16)。けれども、神はただ懲らしめるようなお方ではなく、愛のお方なのだから、苦難を通して何かを教え諭している、と言う(17-27)。

苦難にあったとき、神様に全面的に信頼して歩むことができるよう祈ろう！

2021/10/14(木)

ヨブ記 6 章

ヨブの想像を絶する苦しみの中では、友人エリファズは誠心誠意の言葉はヨブには届かなかった。

どんなに正しく思える言葉でも、渦中の人には届かない時があり、またそれがその人をなお苦しめることがある。そして8節では苦しみのあまり、死にたいととれる発言までしている。

本当に苦しんでいる人に対して、どこまで寄り添い、愛せているだろうか。それぞれの考え、価値観がある中で私たち人には完璧になすことができない。神様のあわれみなくして本当に寄り添うことはできないのである。神様のあわれみの心を求めよう！！

2021/10/15(金)

ヨブ記 7 章

エリファズに対するヨブの応答が続く。ヨブは神様に向かって訴えている。なぜこんなちっぽけな一人の存在に目をつけられるのか。もう生きていたくない。どうして神様は人に関心を向けられるのか。罪ある人間が神様の目に正しくあれるはずがないのに、なぜ放っておかれぬのか、...

ヨブの訴えに共感するところはあるだろうか。似たようなことを感じたり思ったりしたことはあるかな。大切なことは、聖書は、私たちがそのように神様に訴えることを許しているということだね。祈りは神様に自分の心を注ぎ出す機会でもある。心の思いのすべてを神様にさらけ出したことはあるだろうか。心を開いて、自分の口で神様に祈ろう。

2021/10/16(土)

ヨブ記 8 章

エリファズに続いて、ビルダデがヨブに語りかける。ビルダデは神様の正しさについて強くヨブに訴えているね。

神様はいつでも正しく、公正だから罪を犯した人には必ず裁きがある。誠実な人には悪いことはしない、だから今のヨブの状況には何かしらの罪があってそれを悔い改めたらいいんだと言っているんだ。たしかに神様は絶対に正しい方で、神様に従う人に報いてくださる方だ。だけど、神様は愛する子を訓練される、とある箇所もある。つまり、状況が悪いからと言ってすべてが何かの罰だっていうわけではないんだね。

一見正しいということも、神様の愛がなければただの押し付けになってしまう。神様の愛をもって友だちや家族のことを見ていけるよう祈ろう！友だちを励ましたり、話を聞く時に神様は何を言っているか聞いてみよう！

2021/10/17(日)

ヨブ記 9:1-20

ヨブはビルダデの語りかけた言葉を受け入れ、神の圧倒的な強さを語ります。圧倒的な神の力を前に、ヨブはどのような思いだったのでしょうか。自分自身がどのようなであっても神の前では神の定めた通りにしかならないと、ヨブは測り知れない神の力を嘆くように言葉を続けます。

神様はヨブのことを「誠実で神を恐れる者である」と言っていました。ヨブはそのことを知らずに神様への言葉を続けていました。

私たちも、神様の思いを知らずに、誤解をして神様への言葉をのべてしまうことはないでしょうか。自分自身が神様をどのように見ているのか、静まって考えてみよう。